

2021 年度 事業報告書

(2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日)

I. 概況

2021 年度における当協会（TEPIA）の事業については、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けることとなったが、リニューアル等を進めてきた展示事業を年度末にオープンするとともに、アウトリーチなども含めたデジタル活用の推進など、社会環境の変動に即した対応に努めてきた。今後、社会の感染症対応の進展に伴って、当協会の各事業の再構築に向けた対応も進めることとしている。

このような中であって、2021 年度の収支を見れば、当協会は、財産運用については低金利環境が継続する中、為替変動等の運用リスクを注視しながら、運用先・通貨・期間等を考慮した分散投資に努め、適切な資産運用を実施してきた。その結果、2021 年度決算においては、前年度実績を上回る運用収入を確保することができた。

事業収入については、新型コロナウイルス感染症拡大の長引く影響や、緊急事態宣言の発出等による感染症拡大防止の観点から、年度を通じて貸会場の貸出を休止するとともに、スポーツジム及びレストランの賃貸について、先方の減収に伴う一時賃料減免要望に応じたことから前年に引き続き大幅な減収となった。非収益事業である展示事業等については、2020 年度に引き続き、コロナ禍により、2021 年度も展示の休止、リニューアルオープン延期など事業計画の大幅な見直しをせざるを得ない中、可能な活動を継続した。まずオンラインでアクセスできるバーチャル展示として“デジタル TEPIA”を 6 月にスタートし、同時にオンラインによるプログラミング講座などを開始した。また地方におけるアウトリーチ事業も地域により、完全オンライン、リアル（対面）、ハイブリッド（オンラインとリアル併用）の 3 種類の開催方式により数か所を実施した。展示も何度かの延期を経て、工事等を進め、2022 年 3 月 22 日にリニューアルした展示をオー

ブンした。各事業実施にあたっては感染対策、セキュリティ対策を徹底するため、協会内の関連ルール作成や、必要設備等の導入も協会内で連携して実施した。

なお、2021年東京オリンピック・パラリンピック開催後の神宮外苑地区整備計画に関しては、東京都、関係地権者等の動向を踏まえつつ、引き続きTEPIAとして必要な対応を行った。

その他の事業も含め、2021年度に実施した事業の主な内容は、以下のとおりである。

II. 実施事業の具体的な内容

1. 情報リテラシー事業

本年度は昨年度同様、コロナ禍のため、TEPIA 先端技術館でのプログラミング等のリアルの各種講座や地方でのリアルのイベントの開催が困難であったが、一部の地域でのリアル開催やオンライン講座等を東京及び地方の参加者を対象に実施した。

(1) アウトリーチ事業（地方展開）

今年度はコロナ禍のため昨年度延期となっていた4地域のうち2地域（愛媛県新居浜市、長野県長野市）において、地元の自治体・教育機関等の協力のもと、感染対策を徹底した地元主催の予約制イベントへの出展やオンライン講座を実施した。その他、過去にアウトリーチ事業の開催実績がある北海道札幌市、福島県南相馬市において、地元団体主催のオンラインもしくはハイブリッド方式のプログラミング体験講座等を昨年度同様に実施した。

- ① 福島県南相馬市 ” ロボテス縁日 ロボット・ドローン大集合 “イベントへの参加。

【実施日・場所】

2021年10月30日（土）～31日（日）

南相馬市 福島ロボットテストフィールド

地元主催の上記イベントにプログラミング講座を出展した。

昨年度と同様に教材は東京から配送し、少人数のスタッフのみが現地に行き、教える講師は東京の TEPIA からオンラインで子供達を指導するハイブリッド方式で実施した。

- ② 愛媛県新居浜市 ”新居浜市まち・わざ・しごとフェス 2021” への参加

【実施日・場所】 2021年11月21日（日）ワクリエ新居浜

地元主催の上記イベントに“TEPIA 先端技術館プレゼンツプログラミング体験広場”を出展した。当日は十分な感染対策を施し、複数のプログラミング体験を提供するリアルイベントを申込制で開催した。子どもたちへのプログラミング指導は新居浜工業高等専門学校の学生等の協力を得て実施した。

- ③ 北海道札幌市での地元主催の”ジュニア・プログラミング・ワールド (JPW) 2021 in 札幌” への参加

【実施日】 2022年1月15日（土） 完全オンライン

昨年度に引き続き、上記イベントがオンライン方式で開催されたため、東京から TEPIA 研究員が完全オンラインで、①教育用のコンピュータ教材である“micro:bit”を使ったプログラミングの講座と②3D CAD 体験の 3D モデリング講座の二つを実施した。3D モデリング講座参加者には各自のデータをもとに TEPIA の 3D プリンタで出力した作品を郵送した。

- ④ 長野県長野市長沼小学校 3D モデリング オンライン講座

【実施日】 2022年2月24日（木）

6年生の3、4時間目の授業としてオンラインで実施
2019年秋の災害で水没被害を受けた同校の全生徒に対して、2月中旬

に自治体等の協力のもと、同校内でのリアルなプログラミング体験講座を予定していたが、同地域での感染拡大のため、直前に延期せざるを得なくなった。その代替りとして同校からの要請を受け、2022年3月に卒業する6年生のみを対象にオンラインでの講座を実施した。事前にパソコン等の必要機材は東京から配送し、同校の教員によるパソコン設定・接続確認作業のあと、完全オンラインで3Dモデリング講座を授業の一環として実施した。3Dモデリングの基本的な操作を学びながら、グループごとに一つずつ海の生き物のオリジナルデザインを完成させた。講座終了後、個々の作品はTEPIAの3Dプリンタで出力し、後日郵送した。

2. 先端技術に関する展示事業等

(1) 展示のリニューアル実施

2019年度から計画し、準備を進めてきた展示リニューアルは、当初の予定2020年度のオープンをコロナ禍のために何度か延期をせざるを得なくなったが、2022年3月22日に完全予約制としてオープンした。さらに、オンラインで先端技術に触れることができる、バーチャル展示館である“デジタルTEPIA”を2021年6月にスタートした。

年度後半は、実物展示のリニューアルオープンに向けて企画案作成と候補企業等との出展交渉を実施し、10月に先端技術館の照明設備のLED化を実施し、12月より展示造作・施工を実施した。

2022年2月1日にプレオープンし、関係者による内覧等とともにスタッフ等の研修を経て、3月22日オープンした。コロナ禍のため、人数制限および徹底した感染対策を施した上で、一日3部の総入れ替え制の完全事前予約制の運営とした。

リニューアルにあたっては、展示エリアを「プロローグ」、「ショーケース」、「ワークショップエリア」、および「クリエイティブラボ」の4つに分け、若者とテクノロジーをつなぐ「CONNECT」をテーマに様々なコンテンツ

を展開した。「プロログ」エリアにおいては、現代社会が抱える様々な課題を説明する展示をし、メインの「ショーケース」エリアでは、様々な社会課題を解決するために開発された先端技術の数々をわかりやすくパネル展示や映像、実機で紹介し、「ワークショップエリア」では、初めての方でも簡単にできるプログラミング体験ワークショップを開催し、2階の「クリエイティブラボ」(下記(2))ではものづくりに挑戦できる環境を整備した。

(2) クリエイティブラボ開設

青少年がものづくりに興味を持ち、自由な発想で「ものづくり」ができる施設をめざしたクリエイティブラボを開設した。昨年度に引き続き、2021年度は3Dプリンタ、レーザーカッター、アナログの工作機器や工具等を揃える環境整備を実施した。将来的には青少年が実際にラボで工作等できるようにする計画であるが、2021年度はオンライン活動のみとし3Dモデリング等のオンライン講座を開催した。

【内容・実施日】

・「かんたん 3D モデリング」

5月22日、6月19、27日、7月3、11、17日、9月18日、10月16日、12月11、19日、2022年2月27日（一日2回開催）

・2021年度末の春休みオンラインプログラム（カッコ内は2022年度）

・「かんたん 3D モデリング」講座

2022年3月29、30日、（4月1、2日）

・「はじめてのプログラミング」講座

2022年3月31日、（4月3日）

3. 顕彰・助成事業等

(1) キッズデザイン賞における TEPIA 特別賞授与

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が毎年実施する「キッズデ

デザイン賞表彰」(後援：経済産業省)において、“TEPIA 特別賞”を本年も継続した。

- ・表彰式開催日(第15回キッズデザイン賞) 2021年9月29日
- ・TEPIA 特別賞：「おんがくであそぼう ピコトンズ™」
(受賞者)株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント

4. 先端技術などに関する映像情報サービス事業

(1) ビデオライブラリーの運営

本事業は、ロボットやAI、ものづくり、生物模倣技術などの先端技術に関するコンテンツなどを来館者やインターネットで配信するものであったが、2019年度に館内での視聴サービスとともにインターネット配信もいったん終了していた。しかし、コロナ禍におけるオンラインでの科学技術へのアクセスの確保の観点から2021年度もインターネット配信のみ継続した。

(2) TEPIA 講演会等の開催

先端技術の動向や課題等の理解を目的に開催するTEPIA講演会は毎年開催していたが、コロナ禍の影響のため、今年度も開催せず、次年度に延期した。

5. 調査・広報事業等

(1) 先端技術ベンチャー企業等支援事業

(株)フューチャーパートナーズを通じたベンチャー企業等への支援に関しては、コロナ禍により事業活動に大きな影響を受けた既出資先の1社に対し追加出資を行った。その他、事業支援のための活動を行った。

(2) 広報事業

TEPIA メールマガジンやTEPIA ウェブサイト、SNS等にてオンライン

講座情報、その他 TEPIA の事業活動に関連する情報で読者に興味を持たれそうなコンテンツを発信し続け、TEPIA 先端技術館の PR に努めた。

また、港区の地域情報誌や修学旅行生向け旅行情報誌等、今後も重要な発信源となるメディアと良好な関係を保つべく、各種情報の更新や画像提供等を行った。港区等の地域の関係団体との交流を実施するとともに、科学系展示館の全国的連合組織の年次総会等に出席し、全国の関係組織へ TEPIA のリニューアルに関する情報発信等を行い関連の情報収集を実施した。2021 年 6 月のデジタル TEPIA 公開時、および 2022 年 3 月 22 日の TEPIA 先端技術館リニューアルオープン時には全国・地方紙、通信社等、約 300 のメディアにプレスリリース配信を行い、日本経済新聞社や共同通信社からは実際の取材を受け、具体的な記事掲載につなげた。

6. TEPIA 館施設の賃貸

貸会場については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や 2 度にわたる緊急事態宣言の発出もあり、年間を通じて貸出を休止した。また、スポーツジム及びレストランの賃貸事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による賃貸先の減収に伴う一時賃料減免要望に応じた。

次年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に変化が無ければ、暫くは貸会場の貸出の休止が続くものと見込まれるが、新型コロナウイルス感染症拡大が終息した際には、顧客ニーズに対応した営業を展開し、施設の稼働率向上に努めるとともに、利用者の満足度向上・新規顧客の獲得を進め、営業基盤の拡充に努めるものとする。

以上